

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	阿南工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
	創造技術工学科 (機械コース)				9	9	7	
	創造技術工学科 (電気コース)				7	7	7	
	創造技術工学科 (情報コース)				7	7	7	
	創造技術工学科 (建設コース)				10	10	7	
	創造技術工学科 (化学コース)				8	8	7	
	制御情報工学科				7	7	7	
	構造設計工学専攻				2	11	7	
	電気・制御システム工学専攻				2	11	7	
	創造技術システム工学専攻(機械システムコース)				2	11	7	
	創造技術システム工学専攻(電気電子情報システムコース)			9		9	7	
	創造技術システム工学専攻(建設システムコース)					9	7	
	創造技術システム工学専攻(応用化学コース)					9	7	
(備考) 創造技術工学科は、H26年度から新設。制御情報工学科は、H25年度をもって募集停止。								

創造技術システム工学専攻は H31 年度から新設。
構造設計工学専攻，電気・制御システム工学専攻は，H30 年度をもって募集停止。

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

高専 Web シラバス (阿南工業高等専門学校)
https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=38&lang=ja

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	阿南工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.kosen-k.go.jp/about/release/index.html#yakuinmeibo>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	熊本大学長	平成28年4月1日～ 令和6年3月31日	理事長
常勤	東京工業大学理事・副学長	平成30年4月1日～ 令和2年3月31日	研究・産学連携 情報システム
非常勤	東京大学教授	平成26年4月1日～ 令和2年3月31日	男女共同参画 推進
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	阿南工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>授業計画(シラバス)作成に当たっては、12月初旬に、教員宛に入力依頼を実施している。</p> <p>同計画においては、次のものを記載している。</p> <ul style="list-style-type: none"> a. 授業科目(科目番号), 担当教員, 単位数, 使用教科書 b. 到達目標, 同ルーブリック c. 教育方法(概要, 授業の進め方) d. 授業計画(週別概要) e. 成績評価(定期試験, 小テスト, ポートフォリオ等の割合) <p>各教員は, 1月末までに次年度シラバスをWebシラバスとして作成する。</p> <p>授業計画(シラバス)は, 国立高専機構として一括管理され, その公開は当該年度4月1日に公開される。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>高専Webシラバス</p> <p>https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=38&lang=ja</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

(1) 学業成績

ほとんどの科目は、1年に4回の試験を行います（前学期のみ、または後学期のみ行われる科目は2回）。各試験終了後には、成績を算出し集計します。

各成績の点数は、試験成績や平常点から100点満点で出されます。多くの科目では次のように算出されます。

前学期の中間成績： 前学期中間試験の点数，前学期の平常点を総合した点数（ただし，平常点を算出できない場合は前学期中間試験の点数のみの場合もある）

前学期の期末総合成績： 前学期中間試験の点数，前学期末試験の点数，前学期の平常点を総合した点数

後学期の中間成績： 通年科目は，前学期中間試験・前学期末試験成績・後学期中間試験及び平常点を加味した点数（ただし，後学期開講科目について，平常点を算出できない場合は後学期中間試験の点数のみの場合もある）

学年末の総合成績： 前学期中間試験の点数，前学期末試験の点数，後学期中間試験の点数，後学期末試験の点数，年間の平常点を総合した点数

ここで、平常点とは

- ・授業時間中の小テスト成績

- ・レポート、製図、宿題などの提出物の提出状況や達成度などを基に算出された点数

なお、この成績の算出方法は、科目や授業担当教員により多少異なりますので、必ず「シラバス」を見て、不明な点があればその授業担当教員に聞いてください。なお、履修科目の平均点をもって席次を決定します。

上記の成績のうち、学年末総合成績を「学業成績」と呼び、皆さんの進級・卒業・就職・進学などを決める時の最も重要なデータとなります。

(2) 単位認定

上記の学業成績が60点以上の科目は「合格」となり、「単位」の修得が認められます。ただし、当該科目の授業時間の2/3以上の出席が必要です。なお、4、5年次の学修単位（45時間学修単位）は、上記の規定に加えてその科目に定められた自学自習時間の2/3以上の時間のエビデンス（予習や復習の自学自習をしたことの証拠となる書類）が必要です。また、学修単位の講義科目で補講時間が含まれる場合（区分B）は、補講時間の2/3以上の出席も必要です。

学業成績評価に関する規則第15条に基づき、卒業・進級判定会議の議を経て、校長が認定している。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

客観的な指標の算出方法は、履修科目の成績評価を点数化し、全科目の合計点の平均を算出する（100点満点で点数化）。

【成績評価】

学業成績の評価は点数により、次の表のように定められています。

学業成績（100点満点）	評 定
100点 ～ 80点	優
79点 ～ 65点	良
64点 ～ 60点	可
59点以下	不可

<p>客観的な指標の 算出方法の公表方法</p>	<p>阿南工業高等専門学校 情報公開 6. 学修の成果に関する情報 成績評価基準（本科・専攻科） https://www.anan-nct.ac.jp/introduction/information-draft/ 客観的な指標の算出方法 https://www.anan-nct.ac.jp/education/</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

学則第 27 条及び学業成績評価に関する規則第 15 条に基づき、卒業・進級判定会議の議を経て、校長が認定している。また、下記要件については、学年の修了と卒業の認定指針として学生に周知している。

【本科】

(1) 学年の修了

各学年毎に、学年を修了して進級するための条件が定められている

- ① 年間欠席日数が出席すべき日数の 1 / 3 を超えないこと
- ② 最低修得単位数を満たしていること
- ③ 特別活動が合格であること
- ④ 必修科目を履修していること
- ⑤ 前々学年の必修科目を修得していること

【進級（卒業）要件

学 科	単 位	第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	第 4 学年	第 5 学年
創造技術工学科	最低修得単位	25	58	90	126	167
制御情報工学科	最低修得単位	25	58	90	126	167

(2) 卒業の認定

上記の (1) 学年の修了の条件に加えて、必修科目と卒業研究 (10 単位) との合格を含む 167 単位以上の修得と、さらに、その内訳として、一般科目 75 単位以上、専門科目 82 単位以上 (卒業研究を含む) の修得が必要です。これは高等専門学校設置基準で定められています。

【専攻科】

阿南工業高等専門学校専攻科の学業成績に関する規則で規定

第 24 条次の各号を全て満たしている者については、原則として修了を認める。

- (1) 全ての必修科目の単位を修得している者

※創造技術システム工学専攻 (令和元年度入学生)

- (2) 本校学則第 36 条に規定するほか、一般科目については 8 単位以上、専門共通科目についてはインターンシップを除いて 30 単位以上、専門科目については 12 単位以上を修得している者

※構造設計工学専攻、電気・制御システム工学専攻 (平成 30 年度入学生)

- (2) 本校学則第 36 条に規定するほか、一般科目については 14 単位以上、専門共通科目については 12 単位以上、専門科目については 32 単位以上を修得している者

- (3) 学位取得のための次の基準を満たしている者。各専攻区分の専門科目 (以下この号において同じ。) 及び関連科目は、別に定める

- ・専門科目 (学修総まとめ科目を含む。) を 31 単位以上修得している者
- ・専門科目 (学修総まとめ科目を含めない。) 及び関連科目で 40 単位以上を修得している者

- (4) 学位取得のための学修総まとめ科目履修計画書又は学修成果 (レポート) を学位授与機関へ提出している者

- (5) J A B E E 科目において、124 単位以上修得している者

- (6) J A B E E 科目のうち、次の科目群から 1 科目以上、合計 6 科目以上の単位を修得している者

- ・設計・システム系科目群
- ・情報・論理系科目群
- ・材料・バイオ系科目群
- ・力学系科目群
- ・社会技術系科目群

<p>(7) (削除)</p> <p>(8) 本校教育プログラムで規定した学習・教育目標と J A B E E 科目との関係 (配点ポイント数を含む。) について, 学習・教育目標 (D1), (D2), (E1) 及び (E2) における獲得ポイントが, それぞれ 20 ポイント以上である者</p> <p>(9) 特別研究の内容に関連する学外の学会等において, 研究成果を発表している者</p> <p>(10) 全ての学習・教育目標について, その目標が達成できている者</p>	
<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<p>阿南工業高等専門学校 情報公開 6. 学修の成果に関する情報 卒業・修了認定基準 (本科・専攻科) https://www.anan-nct.ac.jp/introduction/information-draft/</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	阿南工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/documents/zaimusyohyoH29.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/documents/zaimusyohyoH29.pdf
財産目録	
事業報告書	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/H29jigyohokokusho1.pdf
監事による監査報告(書)	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/kanjikenH30.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の年度計画 対象年度:平成31年度(2019年度))
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/nendo-h31.pdf
中長期計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の中期計画 対象年度:平成31年(2019年)4月1日から令和6年(2024年)3月31日まで)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/chuukikeikaku-4th.pdf

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法:阿南工業高等専門学校HP(情報公開) https://www.anan-nct.ac.jp/introduction/information-draft/
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:阿南工業高等専門学校HP(情報公開) https://www.anan-nct.ac.jp/introduction/information-draft/
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 創造技術工学科
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.anan-nct.ac.jp/introduction/information-draft/) (概要) 【学校の目的】 本校は、教育基本法にのっとり、及び学校教育法に基づいて深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。 【準学士課程の目的】 学科における教育目的は、次のとおりとする。 創造技術工学科は、社会人・職業人として必要な一般教養と国際化対応能力、工学分野のものづくりに共通して必要な基礎的知識・技術と情報処理能力、核となる分野に関する知識・技術と他分野の専門知識を教授し、様々な産業分野で幅広い課題について解決あるいは対応できる人材の育成を目的とする。各コースの核となる知識・技術とは次のとおりとする。 (1) 機械コースは、機械の力学、加工、材料及び制御に関する機械工学の知識と技術、機械システムの設計と製造で必要とされる実践的な知識と技術とする。 (2) 電気コースは、電気エネルギーから電子情報通信に及ぶ電気電子工学の知識と技術、電気・電子回路の設計・製作・解析で必要とされる実践的な知識と技術とする。 (3) 情報コースは、コンピュータを利用して制御を行うための計測・制御・情報工学の知識と技術、情報通信システムおよび制御システムの調査・分析・設計で必要とされる実践的な知識と技術とする。 (4) 建設コースは、環境や情報の分野を融合した建設工学の知識と技術、構造物の建設や環境保全で必要とされる実践的な知識と技術とする。 (5) 化学コースは、無機化学から有機化学に及ぶ材料や化学工学の知識と技術、材料開発、化学プラント開発、化学薬品製造で必要とされる実践的な知識と技術とする。
卒業の認定に関する方針 (公表方法： https://www.anan-nct.ac.jp/entrance_exam/about_anan/3policies/) (概要) 【卒業要件】 準学士課程は、育成する技術者像を踏まえた学修成果を達成した上、学則に定めた所定の要件を満たした者に卒業を認定する。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： https://www.anan-nct.ac.jp/entrance_exam/about_anan/3policies/) (概要) ディプロマ・ポリシーに定めた育成する技術者像にもとづく学修成果を達成するために、一般教養科目群、専門共通科目群、専門科目群を編成する。 準学士課程の科目編成、学習内容、学習方法に関する方針 1 一般教養科目群 ものづくりに共通した基礎的知識や能力を養成するため、講義や演習を主とした学習方法により、自然科学(数学、物理、化学など)や人文科学(英語、日本語、社会など)に関わる科目を設ける。あわせて、これら科目では普遍的に有用性を持つ能力や分野横断的能力を涵養する。 2 専門共通科目群

<p>コースに共通する専門的能力を養成するため、演習や実習を主とした学習方法により、情報リテラシーや工学基礎(デザイン、ものづくり)に関わる科目を設ける。あわせて、これら科目では専門分野に係る横断的能力を涵養する。</p> <p>3 専門科目群</p> <p>コース毎の専門的能力を養成するため、講義や演習に加えて実習や実験を含む学習方法により、核となる分野に関する知識・技術に関わる科目を編成する。また、他分野の専門知識を学ぶことができるように専門科目を配当する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.anan-nct.ac.jp/entrance_exam/about_anan/3policies/)</p>
<p>(概要)</p> <p>入学者選抜の基本方針</p> <p>1 推薦による選抜</p> <p>学校長が推薦する者で、将来エンジニアになろうという意志が極めて強く、かつその適性を備えていると認められる者を受け入れるために実施する。</p> <p>2 学力による選抜</p> <p>エンジニアになるための基礎学力を有し、かつ将来エンジニアになろうという意思を持つ者を受け入れるために実施する。</p> <p>3 帰国生徒特別選抜</p> <p>将来エンジニアになろうという意志が極めて強く、かつその適性を備えていると認められる者を受け入れるために実施する。</p> <p>4 編入学</p> <p>エンジニアになるための基礎学力を有し、将来エンジニアになろうという意志が極めて強く、かつその適性を備えていると認められる者を受け入れるために実施する。</p>

<p>学部等名 制御情報工学科</p>
<p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法：学生課窓口にて配付。H25 年度高専生活のてびき p.90)</p>
<p>(概要)</p> <p>【学校の目的】</p> <p>本校は、教育基本法にのっとり、及び学校教育法に基づいて深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。(学則第1条)</p> <p>【学科の教育目的】</p> <p>制御情報工学科は、コンピュータを利用して制御を行うための計測・制御・情報工学の知識と技術を教授し、制御システムの調査・分析・設計で必要とされる実践的な技術能力を育成することを目的とする。(学則第7条の2)</p>
<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：学生課窓口にて配付。H25 年度高専生活のてびき p.93, p.123)</p>
<p>(概要)</p> <p>【卒業】</p> <p>各学年の全課程を修了した者には、校長は、所定の卒業証書を授与する。(学則第27条)</p> <p>【進級及び卒業の認定】</p> <p>卒業及び進級の認定は、卒業・進級判定会議の議を経て、校長が行う。</p> <p>次の各号に該当しない者については、原則として進級、卒業を認める。</p> <p>(1) 年間欠席日数が出席すべき日数の3分の1を超える者</p> <p>(2) 不合格科目のある者</p> <p>(3) 特別活動履修状況が不良の者 (学業成績評価に関する規則第15条)</p>

<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：学生課窓口にて配付。H25 年度高専生活のてびき)</p>
<p>(概要) 平成 25 年度において、以下の教育目標を基本とし教育課程を編成、実施していた。</p> <ul style="list-style-type: none"> (A) 国際人としての教養を高め、人間社会や自然環境に対する責任感及び倫理観について考えられる技術者 (B) 社会が要求している問題を見出し、数学・自然科学・情報技術を利用した問題解決に取り組める技術者 (C) 日本語で論理的に記述・討論する経験を積み、専門分野において国際的にコミュニケーションがとれ、口頭発表ができる技術者 (D) 継続して専門技術や知識を学習する習慣をみがき、複合的な技術開発を進められる能力を高めた技術者 (E) 「ものづくり」を重視し、技術的構想や創造的思考を実現させるためのデザイン能力を高めた技術者
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：学生課窓口にて配付。H25 年度学校要覧 p. 8)</p>
<p>(概要) 【入学者受入方針】 阿南工業高等専門学校は、しっかりとした専門知識を、社会の中で実践的に活用できる可能性をもつエンジニアの育成をめざします。 そのために必要な、次のような能力などの育成にむけて、揺らぐことのない目的意識と強い意欲をもつ人を求めています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○エンジニアとしての責任感と倫理観 ○問題の解決能力 ○豊かなコミュニケーション能力 ○自立的な学習能力

<p>学部等名 創造技術システム工学専攻</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.anan-nct.ac.jp/introduction/information-draft/)</p>
<p>(概要) 【学校の目的】 本校は、教育基本法の精神にのっとり、及び学校教育法に基づいて深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。</p> <p>【専攻科課程の目的】 専攻科は、学科における教育の基礎の上に、更に高度な専門的知識と技術を教授し、その研究を指導することを目的とする。専攻科課程を通して、核となる分野に関する確固たる知識をベースとしてもち、その方法論・実践論を幅広い工学分野を対象として創造的に活用できる可能性をもった技術者の育成を図る。各コースの核となる専門的知識と技術は、次のとおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 機械システムコースは、機械工学に関する研究課題を解決するために必要な力学、材料、生産・加工、設計、熱流体、機械力学・制御などの知識と情報収集、整理、研究遂行のための専門的知識と技術とする。 (2) 電気電子情報コースは、電気電子工学、情報工学に関する研究課題を解決するために必要な電気回路、デジタル回路、ロボット制御、計測、プログラミングなどの知識と情報収集、整理、研究遂行のための専門的知識と技術とする。 (3) 建設システムコースは、土木工学に関する研究課題を解決するために必要な構造・

材料、地盤・水工・環境、計画・防災などの知識と情報収集、整理、研究遂行のための専門的知識と技術とする。

(4) 応用化学コースは、応用化学に関する研究課題を解決するために必要な物理化学、無機化学、有機化学、分析化学、生物化学、化学工学などの知識と情報収集、整理、研究遂行のための専門的知識と技術とする。

卒業の認定に関する方針

(公表方法：https://www.anan-nct.ac.jp/department/advanced/sen_dp/)

(概要)

【修了要件】

専攻科課程は、上述した育成する技術者像を踏まえて必要な学修成果を身に付けた上、学則で定められた所定の要件を満たした者に修了を認定する。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：https://www.anan-nct.ac.jp/department/advanced/sen_cp/)

(概要)

1. カリキュラムの設計方針

ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を育成するために、専攻科のカリキュラムは次のような方針に基づいて編成している。

(1) 国際人としての教養と社会・自然への責任感および倫理観を育成するため、共通必修科目として「英語」、「技術者倫理」、「比較文化論」、「環境政策論」等の一般科目を設ける。

(2) 数学・自然科学・情報技術を利用しながら技術課題を解決できる能力を育成するため、「線形代数論」、「解析学」、「情報処理演習」を専門共通科目又は専門科目として設ける。

(3) 社会が要求している問題を見出し、かつ幅広いコミュニケーション能力を育成するため、1年次に最長3ヶ月間のインターンシップ期間を設ける。また、学協会等での発表を課すことにより、その準備プロセスも含めて論理的な記述・討論や口頭発表の能力を涵養する。

(4) 継続して専門技術や知識を学習する習慣、及び自律的かつ柔軟な課題解決能力を育成するため、「特別研究」を設ける。さらにチームで複合的な技術開発を進められる能力を育成するため、専門分野の異なる学生と共同で課題解決を行う「創造工学演習」を設ける。

(5) 「ものづくり」を重視し、必要なデザイン能力を身に付けるため、各コースの専門に応じた「工学実験」を設ける。

(6) 幅広い分野の知見を取得し、先端技術情報を知るため、「創造設計工学演習(副専攻)」と「創造工学セミナー」を設ける。

2. 学習方法・学習内容に関する方針

(1) 人文科学、社会科学系科目群

講義を主とした学習方法により、人文科学(英語、比較文化論、技術者倫理など)や社会科学(環境政策論など)に関わる科目を編成する。これらの科目の学習を通して、技術者として必要な教養や責任感などを涵養する。

(2) 数学・自然科学・情報技術科目群

講義や演習を主とした学習方法により、数学(線形代数論、解析学など)、自然科学(統計熱力学、物理学特論など)、情報技術科学(シミュレーション工学など)に関わる科目を編成する。これらの科目の学習により、専門分野を学ぶ上で必要な基礎的知識を涵養する。

(3) 専門分野群

講義を主とした科目(流体の力学、電気デバイス工学、応用構造力学、有機合成化学など)と、演習を主とした科目(創造設計工学演習、創造工学演習など)、実験を主とした科目

<p>(機械システム工学実験，電気電子情報工学実験，建設システム工学実験，応用化学実験など)，実習を主とした科目(インターンシップ)，及び創造技術システム工学特別研究で編成する。これらの科目の学習を通して，技術者が必要とする知識・技術を涵養する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.anan-nct.ac.jp/department/advanced/sen_ap/)</p>
<p>(概要)</p> <p>1. 求める人物像</p> <p>専攻科は，専門分野における確固たる知識を基盤に，幅広い工学分野において，その知識を創造的かつ実践的に活用できる可能性をもつエンジニアの育成をめざします。そのために必要な，次のような素養を持つ人物を求めています。</p> <p>(a) 国際人としての教養 (b) 社会・自然への責任感と倫理観 (c) 知識・技能を身に付け、問題を発見・解決する能力 (d) 幅広いコミュニケーション能力 (e) 主体性を持って多様な人々と協働して学習する能力 (f) 「ものづくり」につながる創造的思考力</p> <p>2. 入学者選抜の基本方針</p> <p>(1) 推薦による選抜</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高等専門学校在学中に優秀な成績を修め，かつ，国際人としての教養があるとして学校長が推薦する者で，自分の専門分野への関心と明確な目的意識を持っている者を受け入れるために実施する。 <p>(2) 学力による選抜</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数学，英語に関する基礎学力の上に，自分の専門分野の基礎的知識と学習能力を持っている者を受け入れるために実施する。 <p>(3) 社会人特別選抜</p> <ul style="list-style-type: none"> ・責任感と倫理観を持ち向学心に燃える社会人で，国際人としての教養があり，自分の専門分野への関心と明確な目的意識を持っている者を受け入れるために実施する。 <p>(4) AOによる選抜</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際人としての教養と基礎学力があり，自分の専門分野への強い関心と学習意欲，表現力，コミュニケーション能力を持っている者を受け入れるために実施する。
<p>学部等名 構造設計工学専攻</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.anan-nct.ac.jp/introduction/information-draft/)</p>
<p>(概要)</p> <p>【学校の目的】</p> <p>本校は，教育基本法にのっとり，及び学校教育法に基づいて深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を育成することを目的とする。</p> <p>【専攻科課程の目的】</p> <p>専攻科は，学科における教育の基礎の上に，更に高度な専門的知識と技術を教授し，その研究を指導することを目的とする。専攻科課程を通して，核となる分野に関する確固たる知識をベースとしてもち，その方法論・実践論を幅広い工学分野を対象として創造的に活用できる可能性をもった技術者の育成を図る。</p> <p>また，構造設計工学専攻は，機械工学，建設工学に関する研究課題を解決するために必要な力学，加工，材料，制御，環境，構造物の設計などの知識と情報収集，整理，研究遂行のための技術とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.anan-nct.ac.jp/department/advanced/sen_dp/)</p>

<p>(概要)</p> <p>【修了要件】</p> <p>専攻科課程は、上述した育成する技術者像を踏まえて必要な学修成果を身に付けた上、学則で定められた所定の要件を満たした者に修了を認定する。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.anan-nct.ac.jp/introduction/information-draft/)</p>
<p>(概要)</p> <p>1. カリキュラムの設計方針</p> <p>ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を育成するために、専攻科のカリキュラムは次のような方針に基づいて編成している。</p> <p>(1) 国際人としての教養と社会・自然への責任感および倫理観を育成するため、共通必修科目として「英語」、「技術者倫理」、「比較文化論」、「環境政策論」等の一般科目を設ける。</p> <p>(2) 数学・自然科学・情報技術を利用しながら技術課題を解決できる能力を育成するため、「線形代数論」、「解析学」、「情報処理演習」等を専門共通科目として設ける。</p> <p>(3) 社会が要求している問題を見出し、かつ幅広いコミュニケーション能力を育成するため、1年次に最長3ヶ月間のインターンシップ期間を設ける。また、学協会等での発表を課すことにより、その準備プロセスも含めて論理的な記述・討論や口頭発表の能力を涵養する。</p> <p>(4) 継続して専門技術や知識を学習する習慣、及び自律的かつ柔軟な課題解決能力を育成するため、「特別研究」を設ける。さらにチームで複合的な技術開発を進められる能力を育成するため、専門分野の異なる学生と共同で課題解決を行う「創造工学演習」を設ける。</p> <p>(5) 「ものづくり」を重視し、必要なデザイン能力を身に付けるため、各専攻の専門に応じた「工学実験」を設ける。</p> <p>(6) 幅広い分野の先端知識を取得するため、各専攻に「工学セミナー」を設ける。</p> <p>2. 学習方法・学習内容に関する方針</p> <p>(1) 人文科学、社会科学系科目群</p> <p>講義を主とした学習方法により、人文科学（英語、比較文化論、技術者倫理など）や社会科学（環境政策論など）に関わる科目を編成する。これらの科目の学習を通して、技術者として必要な教養や責任感などを涵養する。</p> <p>(2) 数学・自然科学・情報技術科目群</p> <p>講義や演習を主とした学習方法により、数学（線形代数論、解析学など）、自然科学（基礎物理学、化学工学基礎など）、情報技術科学（数値計算力学など）に関わる科目を編成する。これらの科目の学習により、専門分野を学ぶ上で必要な基礎的知識を涵養する。</p> <p>(3) 専門分野（基礎科目）群</p> <p>講義を主とした科目（流体の力学、応用構造力学、電気回路解析など）と、演習を主とした科目（機械設計システム工学演習、デジタル回路演習など）で編成する。構造設計工学専攻は主に機械工学科と建設システム工学科出身の学生、電気・制御システム工学専攻は主に電気電子工学科と制御情報工学科出身の学生であるため、各専攻の専門科目を学ぶ上で必要とする共通の知識を涵養する。</p> <p>(4) 専門分野科目群</p> <p>講義を主とした科目（エネルギー工学など）、演習を主とした科目（構造設計工学演習、創造工学演習）、実験を主とした科目（機械システム工学実験、建設システム工学実験など）、実習を主とした科目（インターンシップ）、及び特別研究で編成する。これらの科目の学習を通して、技術者が必要とする知識・技術を涵養する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針</p>

(公表方法： https://www.anan-nct.ac.jp/introduction/information-draft/)
(概要)
1. 求める人物像
専攻科は、専門分野における確固たる知識を基盤に、幅広い工学分野において、その知識を創造的かつ実践的に活用できる可能性をもつエンジニアの育成をめざします。そのために必要な、次のような素養を持つ人物を求めています。
(a) 国際人としての教養
(b) 社会・自然への責任感と倫理観
(c) 知識・技能を身に付け、問題を発見・解決する能力
(d) 幅広いコミュニケーション能力
(e) 主体性を持って多様な人々と協働して学習する能力
(f) 「ものづくり」につながる創造的思考力
2. 入学者選抜の基本方針
(1) 推薦による選抜
・高等専門学校在学中に優秀な成績を修め、かつ、国際人としての教養があるとして学校長が推薦する者で、自分の専門分野への関心と明確な目的意識を持っている者を受け入れるために実施する。
(2) 学力による選抜
・数学、英語に関する基礎学力の上に、自分の専門分野の基礎的知識と学習能力を持っている者を受け入れるために実施する。
(3) 社会人特別選抜
・責任感と倫理観を持ち向学心に燃える社会人で、国際人としての教養があり、自分の専門分野への関心と明確な目的意識を持っている者を受け入れるために実施する。
(4) AOによる選抜
・国際人としての教養と基礎学力があり、自分の専門分野への強い関心と学習意欲、表現力、コミュニケーション能力を持っている者を受け入れるために実施する。

学部等名 電気・制御システム工学専攻
教育研究上の目的
(公表方法： https://www.anan-nct.ac.jp/introduction/information-draft/)
(概要)
【学校の目的】
本校は、教育基本法にのっとり、及び学校教育法に基づいて深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。
【専攻科課程の目的】
専攻科は、学科における教育の基礎の上に、更に高度な専門的知識と技術を教授し、その研究を指導することを目的とする。専攻科課程を通して、核となる分野に関する確固たる知識をベースとしてもち、その方法論・実践論を幅広い工学分野を対象として創造的に活用できる可能性をもった技術者の育成を図る。
また、電気・制御システム工学専攻は、電気電子工学、情報工学に関する研究課題を解決するために必要な電気回路、デジタル回路、ロボット制御、計測、プログラミングなどの知識と情報収集、整理、研究遂行のための技術とする。
卒業の認定に関する方針
(公表方法：H30年度学校要覧P.16)
(概要)
【修了要件】
専攻科課程は、上述した育成する技術者像を踏まえて必要な学修成果を身に付けた上、学則で定められた所定の要件を満たした者に修了を認定する。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.anan-nct.ac.jp/introduction/information-draft/>)

(概要)

1. カリキュラムの設計方針

ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を育成するために、専攻科のカリキュラムは次のような方針に基づいて編成している。

(1) 国際人としての教養と社会・自然への責任感および倫理観を育成するため、共通必修科目として「英語」、「技術者倫理」、「比較文化論」、「環境政策論」等の一般科目を設ける。

(2) 数学・自然科学・情報技術を利用しながら技術課題を解決できる能力を育成するため、「線形代数論」、「解析学」、「情報処理演習」等を専門共通科目として設ける。

(3) 社会が要求している問題を見出し、かつ幅広いコミュニケーション能力を育成するため、1年次に最長3ヶ月間のインターンシップ期間を設ける。また、学協会等での発表を課すことにより、その準備プロセスも含めて論理的な記述・討論や口頭発表の能力を涵養する。

(4) 継続して専門技術や知識を学習する習慣、及び自律的かつ柔軟な課題解決能力を育成するため、「特別研究」を設ける。さらにチームで複合的な技術開発を進められる能力を育成するため、専門分野の異なる学生と共同で課題解決を行う「創造工学演習」を設ける。

(5) 「ものづくり」を重視し、必要なデザイン能力を身に付けるため、各専攻の専門に応じた「工学実験」を設ける。

(6) 幅広い分野の先端知識を取得するため、各専攻に「工学セミナー」を設ける。

2. 学習方法・学習内容に関する方針

(1) 人文科学，社会科学系科目群

講義を主とした学習方法により、人文科学（英語，比較文化論，技術者倫理など）や社会科学（環境政策論など）に関わる科目を編成する。これらの科目の学習を通して、技術者として必要な教養や責任感などを涵養する。

(2) 数学・自然科学・情報技術科目群

講義や演習を主とした学習方法により、数学（線形代数論，解析学など），自然科学（基礎物理学，化学工学基礎など），情報技術科学（数値計算力学など）に関わる科目を編成する。これらの科目の学習により，専門分野を学ぶ上で必要な基礎的知識を涵養する。

(3) 専門分野（基礎科目）群

講義を主とした科目（流体の力学，応用構造力学，電気回路など）と、演習を主とした科目（機械設計システム工学演習，デジタル回路演習など）で編成する。構造設計工学専攻は主に機械工学科と建設システム工学科出身の学生，電気・制御システム工学専攻は主に電気電子工学科と制御情報工学科出身の学生であるため，各専攻の専門科目を学ぶ上で必要とする共通の知識を涵養する。

(4) 専門分野科目群

講義を主とした科目（電子回路解析，現代制御工学など），演習を主とした科目（電気・制御システム工学演習，創造工学演習など），実験を主とした科目（電気システム工学実験，情報システム工学実験など），実習を主とした科目（インターンシップ），及び特別研究で編成する。これらの科目の学習を通して，技術者が必要とする知識・技術を涵養する。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.anan-nct.ac.jp/introduction/information-draft/>)

<p>(概要)</p> <p>1. 求める人物像</p> <p>専攻科は、専門分野における確固たる知識を基盤に、幅広い工学分野において、その知識を創造的かつ実践的に活用できる可能性をもつエンジニアの育成をめざします。そのために必要な、次のような素養を持つ人物を求めています。</p> <p>(a) 国際人としての教養 (b) 社会・自然への責任感と倫理観 (c) 知識・技能を身に付け、問題を発見・解決する能力 (d) 幅広いコミュニケーション能力 (e) 主体性を持って多様な人々と協働して学習する能力 (f) 「ものづくり」につながる創造的思考力</p> <p>2. 入学者選抜の基本方針</p> <p>(1)推薦による選抜</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高等専門学校在学中に優秀な成績を修め、かつ、国際人としての教養があるとして学校長が推薦する者で、自分の専門分野への関心と明確な目的意識を持っている者を受け入れるために実施する。 <p>(2)学力による選抜</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数学、英語に関する基礎学力の上に、自分の専門分野の基礎的知識と学習能力を持っている者を受け入れるために実施する。 <p>(3)社会人特別選抜</p> <ul style="list-style-type: none"> ・責任感と倫理観を持ち向学心に燃える社会人で、国際人としての教養があり、自分の専門分野への関心と明確な目的意識を持っている者を受け入れるために実施する。 <p>(4)AOによる選抜</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際人としての教養と基礎学力があり、自分の専門分野への強い関心と学習意欲、表現力、コミュニケーション能力を持っている者を受け入れるために実施する。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法： https://www.anan-nct.ac.jp/introduction/information-draft/

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数 (本務者)							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	2人	—					2
創造技術工学科	—	24人	25人	11人	5人	人	65人
	—	人	人	人	人	人	人
	—	人	人	人	人	人	人
	—	人	人	人	人	人	人
b. 教員数 (兼務者)							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員				計	
人		3人				3人	

各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)	公表方法： 国立高専研究情報ポータル https://research.kosen-k.go.jp/researcher-list/?page=1&limit=30&affiliationId=667200000
c. FD (ファカルティ・ディベロップメント) の状況 (任意記載事項)	

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
創造技術工学科	160人	160人	100%	800人	797人	99.1%	若干人	6人
制御情報工学科	人	人	%	人	2人	-%	人	人
合計	160人	160人	100%	800人	799人	99.9%	若干人	6人
創造技術システム工学専攻	16人	18人	112.5%	16人	18人	112.5%	人	人
構造設計工学専攻	人	人	%	8人	15人	187.5%	人	人
電気・制御システム工学専攻	人	人	%	8人	16人	200.0%	人	人
合計	16人	18人	112.5%	32人	49人	153.1%	若干人	人

(備考)
 創造技術工学科は、H26年度から新設。制御情報工学科は、H25年度をもって募集停止。
 創造技術システム工学専攻はH31年度から新設。
 構造設計工学専攻、電気・制御システム工学専攻は、H30年度をもって募集停止。

b. 卒業生数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
創造技術工学科	145人 (100%)	44人 (30.3%)	98人 (67.6%)	3人 (2.1%)
機械工学科	1人 (100%)	1人 (100%)	人 (%)	人 (%)
制御情報工学科	1人 (100%)	1人 (100%)	人 (%)	人 (%)
合計	147人 (100%)	46人 (31.3%)	98人 (66.7%)	3人 (2.0%)
建設システム工学科	2人 (100%)	1人 (50.0%)	人 (%)	1人 (50.0%)
構造設計工学専攻	10人 (100%)	5人 (50.0%)	5人 (50.0%)	人 (%)
電気・制御システム工学専攻	16人 (100%)	4人 (25.0%)	12人 (75.0%)	人 (%)

合計	28人 (100%)	10人 (35.7%)	17人 (60.7%)	1人 (3.6%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
<p>授業計画(シラバス)作成に当たっては、12月初旬に、教員宛に入力依頼を実施している。</p> <p>同計画においては、次のものを記載している。</p> <ul style="list-style-type: none"> a. 授業科目(科目番号)、担当教員、単位数、使用教科書 b. 到達目標、同ルーブリック c. 教育方法(概要、授業の進め方) d. 授業計画(週別概要) e. 成績評価(定期試験、小テスト、ポートフォリオ等の割合) <p>各教員は、1月末までに次年度シラバスをWebシラバスとして作成する。</p> <p>授業計画(シラバス)は、国立高専機構として一括管理され、その公開は当該年度4月1日に公開される。</p>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)
<p>【単位認定】</p> <p>学業成績が60点以上の科目は「合格」となり、「単位」の修得が認められます。ただし、当該科目の授業時間の2/3以上の出席が必要です。なお、4、5年次の学修単位(45時間学修単位)は、上記の規定に加えてその科目に定められた自学自習時間の2/3以上の時間のエビデンス(予習や復習の自学自習をしたことの証拠となる書類)が必要です。また、学修単位の講義科目で補講時間が含まれる場合(区分B)は、補講時間の2/3以上の出席も必要です。</p>

【成績評価】

学業成績の評定は点数により、次の表のように定められています。

学業成績（100点満点）	評定
100点～80点	優
79点～65点	良
64点～60点	可
59点以下	不可

【本科】**(1) 学年の修了**

各学年毎に、学年を修了して進級するための条件が定められている

- ① 年間欠席日数が出席すべき日数の1/3を超えないこと
- ② 最低修得単位数を満たしていること
- ③ 特別活動が合格であること
- ④ 必修科目を履修していること
- ⑤ 前々学年の必修科目を修得していること

【進級（卒業）要件】

学 科	単 位	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年
創造技術工学科	最低修得単位	25	58	90	126	167
制御情報工学科	最低修得単位	25	58	90	126	167

(2) 卒業の認定

上記の(1)学年の修了の条件に加えて、必修科目と卒業研究(10単位)との合格を含む167単位以上の修得と、さらに、その内訳として、一般科目75単位以上、専門科目82単位以上(卒業研究を含む)の修得が必要です。これは高等専門学校設置基準で定められています。

【専攻科】

阿南工業高等専門学校専攻科の学業成績に関する規則で規定

第24条次の各号を全て満たしている者については、原則として修了を認める。

- (1) 全ての必修科目の単位を修得している者

※創造技術システム工学専攻（令和元年度入学生）

- (2) 本校学則第36条に規定するほか、一般科目については8単位以上、専門共通科目についてはインターンシップを除いて30単位以上、専門科目については12単位以上を修得している者

※構造設計工学専攻、電気・制御システム工学専攻（平成30年度入学生）

- (2) 本校学則第36条に規定するほか、一般科目については14単位以上、専門共通科目については12単位以上、専門科目については32単位以上を修得している者

- (3) 学位取得のための次の基準を満たしている者。各専攻区分の専門科目（以下この号において同じ。）及び関連科目は、別に定める

- ・専門科目（学修総まとめ科目を含む。）を31単位以上修得している者
- ・専門科目（学修総まとめ科目を含めない。）及び関連科目で40単位以上を修得している者

- (4) 学位取得のための学修総まとめ科目履修計画書又は学修成果（レポート）を学位授与機関へ提出している者

- (5) J A B E E科目において、124単位以上修得している者

- (6) J A B E 科目のうち、次の科目群から 1 科目以上、合計 6 科目以上の単位を修得している者
- ・設計・システム系科目群
 - ・情報・論理系科目群
 - ・材料・バイオ系科目群
 - ・力学系科目群
 - ・社会技術系科目群
- (7) (削除)
- (8) 本校教育プログラムで規定した学習・教育目標と J A B E E 科目との関係 (配点ポイント数を含む。) について、学習・教育目標 (D1), (D2), (E1) 及び (E2) における獲得ポイントが、それぞれ 20 ポイント以上である者
- (9) 特別研究の内容に関連する学外の学会等において、研究成果を発表している者
- (10) 全ての学習・教育目標について、その目標が達成できている者
- 情報公開 6. 学修の成果に関する情報
- 成績評価基準 (本科・専攻科)
 進級認定基準 (本科・専攻科)
 卒業・修了認定基準 (本科・専攻科)
 取得可能な称号
- <https://www.anan-nct.ac.jp/introduction/information-draft/>

学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	G P A 制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
	創造技術工学科	167 単位		
	制御情報工学科	167 単位		
	創造技術システム 工学専攻	62 単位		
	構造設計工学専攻	62 単位		
	電気・制御システム 工学専攻	62 単位		
		単位		
		単位		
G P A の活用状況 (任意記載事項)		公表方法 :		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法 :		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法 : 阿南工業高等専門学校HP 7 学習環境に関する情報 https://www.anan-nct.ac.jp/introduction/information-draft/

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
	創造技術 工学科、制 御情報工 学科	234,600 円	84,600 円	154,960 円～ 167,960 円	(内訳) 災害共済給付制度保護者負担分 1,550 円 学生会入会費 2,000 円 学生会費 5,500 円 後援会入会金 10,000 円 後援会費 12,000 円 後援会体育大会援助費 12,300 円 新入生研修費 2,500 円 教科書代 34,500 円 教材 6,960 円 写真代 650 円 体育館シューズ 2,300 円 実習服 8,200 円～8,300 円 体操服 12,700 円 制服 43,800 円～45,600 円 寄宿舎料 8,400 円～9,600 円 (寮生のみ) 寮生交流事業費 1,500 円 (寮 生のみ)
	創造技術 システム 工学専攻、 構造設計 工学専攻、 電気・制御 システム 工学専攻	234,600 円	84,600 円	34,450 円～ 58,650 円	(内訳) 災害共済給付制度保護者負担分 1,550 円 学生会費 5,500 円 後援会費 12,000 円 教科書代 6,400 円～12,700 円 (必修) 教科書代 9,000 円～17,000 円 (選択) 寄宿舎料 8,400 円～9,600 円 (寮生のみ) 寮生交流事業費 1,500 円 (寮 生のみ)

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 修学支援および進路選択支援のため、全学年に担任教員を配置し、加えて1年生から3年生を対象に定期的な懇談を行うなど、修学状況に応じた助言を行い、学生からの相談に応じています。 すべての新入生(編入学生、社会人学生、障害のある学生を含む)に対して全体的もしくは個別のガイダンスを実施し、留学生には個別の学生チューターを配しています。 学習に関わる補習として、希望者を対象とする数学のアドバンスド補習、学習定着のためのクラスあるいは個別の補習を実施しています。 (https://www.anan-nct.ac.jp/introduction/information-draft/syugakushien/)
b. 進路選択に係る支援に関する取組

<p>(概要)</p> <p>阿南高専のキャリア支援は、当キャリア支援室を中心に多くの教職員が携わって、学生ひとりひとりに対応を心掛けています。</p> <p>1. キャリア教育</p> <p>1～3年生には、独自のテキストを用いてキャリア教育を実施しております。</p> <p>4年生はインターンシップ（必修）に参加し、多数のキャリアセミナーを受講することで進路決定を進めていきます。</p> <p>2. コーオプ教育</p> <p>企業における長期就業経験と、学校での講義・実験実習を交互に繰り返し、問題解決能力の向上を図るコーオプ教育を実施しています。（学生支援サイト開設(当事者のみ)）</p> <p>3. 就職・進学情報</p> <p>就職・進学情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職担当一覧（平成31年度就職担当一覧表） ・求人票様式 ・卒業生の進路先（平成28年度～30年度卒業生の進路先を閲覧） ・卒業後の進路（進学及び就職先の状況） <p>【連絡】学生には全学向け教育支援システム（manaba）にて情報提供 (https://www.anan-nct.ac.jp/education/career/)</p>
<p>c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>1. 学生相談室</p> <p>学校生活で生じる様々な悩みや心配事の相談に応じている。 相談内容の秘密は厳守。 学生に関することであれば、保護者の利用も可能。 学校カウンセラーを在室（特定時間帯） (https://www.anan-nct.ac.jp/campus_life/counseling/)</p> <p>2. 障害者支援</p> <p>障害のある学生が、充実した学校生活を送るために学習環境や施設の設備を整備。 自動ドア、多目的トイレ（男女兼用）、身障者用駐車場、屋外入口スロープ、エレベーター、歩行器、車いす用の机を用意するなど、学内のバリアフリー化を推進。 また、入学後の支援として、ご要望に応じ「合理的配慮」を行い、具体的な配慮内容は個別面談で相談の上で決定。 (https://www.anan-nct.ac.jp/introduction/information-draft/syogaisya/)</p> <p>3. 留学生支援</p> <p>阿南高専国際交流室が Facebook で留学生支援のために開設、運営を実施 (https://www.facebook.com/intlofficeanankosen/)</p>

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

<p>公表方法：阿南工業高等専門学校HP https://www.anan-nct.ac.jp/introduction/information-draft/</p>
